

コラム 「下水道技術ビジョン」の策定、推進にかかわる委員会へ参画

平成26年7月に国土交通省が主体となり、下水道の中長期的な方向性や未来像を示すものとして「新下水道ビジョン」が策定、公表されました。

これを受け、国土交通省国土技術政策総合研究所(国総研)が中心となり、下水道事業を取り巻く今後の重要な課題を解決するため、11の技術開発分野ごとに技術目標を設定し、技術目標達成に至るまでのロードマップをまとめ、今後の技術開発の方針を示した「下水道技術ビジョン」を平成27年12月に策定しました。

当ビジョンの作成にあたっては土木研究所からも「下水道技術ビジョン検討委員会幹事会」の幹事として積極的に参画しました。

技術開発分野の構成は、国等の立場から技術開発に関する調査・研究を実施してきた国総研および土木研究所における下水道関係の組織や研究テーマの分類等も参考として設定されました。また、水質チームや iMaRRC(資源循環担当)が進める流域圏管理、水系水質リスク管理、下水道資源の有効利用の推進などの研究分野では、内容検討、とりまとめにあたり、土木研究所は事務局(国総研)との意見交換・情報共有に努め、当所における研究課題が同ビジョンにおける技術開発のロードマップにおいて中心的な研究課題として位置付けられました。

「下水道技術ビジョン」に示された技術開発項目は、「新下水道ビジョン」の目標達成のために必要な技術と位置づけられたものであり、今後の下水道の技術開発の方向性を示すものです。この方向性に従って、研究機関、地方公共団体や民間企業をはじめとする関係者が技術開発を進めていくことが期待されています。

土木研究所は、引き続き、国総研が設置した「下水道技術開発会議」においても委員として参画し、下水道技術ビジョンの進捗管理やフォローアップに貢献していくこととしています。

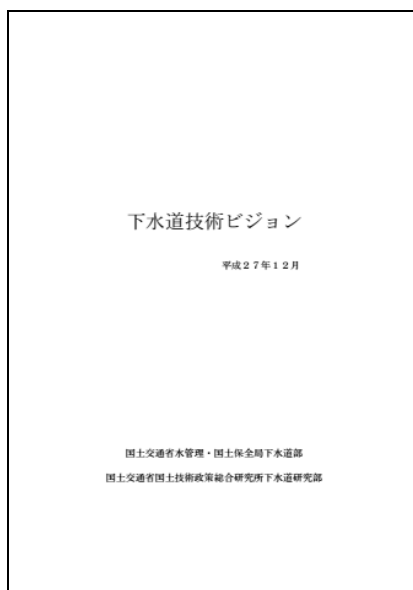


図-1 下水道技術ビジョン